



# 統合病院加賀市医療センターの現在

城西大学経営学部教授 伊関友伸

## 加賀市医療センターを訪問

先日、久しぶりに石川県加賀市にある加賀市医療センター(300床)を訪問した。加賀市医療センターは、旧市立加賀市民病院(226床)と旧市立山中温泉医療センター(199床)を統合した病院である。

二つの病院の統合は、地元住民から反対運動が起き、2013年10月に行われた市長選挙で現職市長が落選するなどの混乱が生じた。選挙で当選した宮元陸新市長は「統合新病院建設計画検証委員会」を設置、筆者は縁あって副委員長となった。委員会では6回に渡って会議が開催され、市民が3分間自由に発言する「市民の意見を聴く会」も行われた。最終的に、病院建設を継続することが適当であるという報告書がまとめられ、2016年4月1日に、統合新病院がオープンした。

## 研修医・医学生が集まる人気病院に

オープンから2年半が経過し、加賀市医療センターの現状はどのようになっているか。

常勤医師は、統合前の最悪期には、加賀市民病院23名(2006年度)、山中温泉医療センター19名(2008年度)まで減少していた。

ていきたいということである。

## 医療提供の質は大幅に向上

病院の統合により常勤医師数37名でスタートした(旧加賀市民31名、旧山中3名、新規採用3名)。統合から2年経過した2018年4月には40名に増加している。特に診療の要である内科は9名から11名に増加している。加えて、病院の規模拡大により医師研修機能が充実し、救急受け入れなどの症例数の多さから、初期研修医、医学生に人気の病院となっている。2018年度の初期研修医受け入れ予定は、金沢大学附属病院、自治医科大学、国立病院機構金沢医療センターなどから12名、延べ31カ月に及ぶ。2019年からは基幹型臨床研修病院として初期研修医の受け入れを行う予定で、2018年10月のマッチングの発表で1名の初期研修医の研修が内定している。2018年の医学生の実習人数は21名、延べ36週に及ぶ。地域医療に欠かせない総合診療医が3名在籍し、指導体制も充実している。今後は、総合診療医の増員を図っ

加賀市医療センターは、基本方針として「救急搬送を断らない体制」を目指している。かつて加賀市の救急医療体制は、医師不足により、2010年の救急患者の4分の1は市外に搬送されていた。現在の加賀市医療センターの2017年度の年間救急搬送受け入れ数は2872人(1日平均7.9人)、搬送依頼に対する応需率は98%に及んでいる。加賀市民の救急医療への期待に応える病院になっている。

加賀市医療センターは、HCUなどを除く一般病室すべてが個室で個室料を取っていない。病室の男女別の配慮が不要で、感染症の管理がしやすく、病床を埋めやすい利点がある。

入院患者延べ数は9万7728人(1日平均268人)で病床利用率は89.2%、一般病床の平均在院日数は16.0日、1人1日当たりの入院単価は4万3088円である。診療



旧加賀市民病院を活用・整備してオープンした「かが交流プラザさくら」

加賀市医療センターの最終的な事業費は107.5億円(建設工事等74.2億円、医療機器等21.6億円、用地費等11.7億円)となった。財源として、地域医療再生基金14.7億円、耐震化補助金12.8億円、再編債8.1億円、病院事業債(特別分)46.3億円、病院事業債22.9億円、自己資金2.7億円が充てられた。病院整

### 病院財務も安定

等の実績に基づく2018年度のDPCの機能評価係数Ⅱ(DPC)について詳しくは市政2017年6月号、8月号の筆者連載記事を参照されたい)は0.0924で、前年より0.0373増加している。石川県内の標準病院群(旧Ⅲ群)において2017年度20病院中14位から、22病院中3位に大幅に順位を上げる成果を残した。入院単価、平均在院日数はまだ向上の余地があると思われる。医師を増やし、診療の質を上げることが重要である。

外来患者延べ数13万10人(1日平均533人)で、1人1日当たりの外来単価は1万2238円となっている。

### 旧2病院の建物の再整備

備に補助金や有利な起債ができ、自治体の負担が軽くなったこと、事前の想定を上回る常勤医師の雇用を実現できたことなどにより、病院財務も安定の傾向を示している。2017年度決算で、一般会計から3条分で約6.2億円、4条分で約4.8億円、合計約11.0億円が繰り入れられている。繰入金のうち約7.9億円は地方交付税で措置され、約3.1億円が加賀市本体からの繰り出しであるという。手持ち現金は約9億円とまだ少ないが、現在の勢いであれば今後増加が期待できる。

病院統合により閉鎖された二つの病院の建物はどうなったか。旧山中温泉医療センターは、児童デイサービスおよび温泉を活用したリハビリテーションの機能も付帯した「山中温泉ぬくもり診療所・このゆびとまれ山中(現在は無床で運用)」として診療を行っている。さらに敷地内に公募によりサービス付き高齢者向け住宅が設置され、「ゆいふる山中(30戸)」がオープンした。

旧加賀市民病院の建物は、町なかのにぎわい創出の拠点として再整備し、2017年4月に「かが交流プラザさくら」としてリニューアルオープンした(上段写真)。新施設は、1階が多目的に活用できる「エントランスホール」「大聖寺観光まちづくり交流館」「市保健センター」「市シルバーワークプラザ」「子育て応

### 筆者プロフィール

#### 伊関友伸 (いせき ともとし)

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大和町企画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保健総合センターなどを経て、2004年城西大学経営学部准教授、2011年4月同教授。研究テーマは、行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福祉のマネジメント。総務省公立病院に関する財政措置のあり方等検討会委員など、数多くの国・地方自治体の委員等を務める。著書に「まちに病院を!」(岩波ブックレット)「自治体病院の歴史 住民医療の歩みとこれから」(三輪書店)などがある。

※石川県内旧Ⅲ群の施設数は下記サイトより引用しました  
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Tokenkoku-hyouka/0000165663.pdf>

援ステーションかがっこネット」などが入居、2階は各種団体の活動のための会議室や調理室、公益事業を行う公共的団体の事務所が置かれている。3階はスタートアップ企業向けの「加賀市イノベーションセンター」が設置され、4階は、金沢の学校法人の分校として外国人向け日本語学科が開設されている。

困難を極めた病院統合であったが、現在は順調に運営が行われている。病院の再編・統合の成功モデル例の一つであると考える。病院の再編・統合を考える自治体・病院関係者は、ぜひ全国有数の温泉地である加賀温泉に宿泊され、視察されることをお勧めする。